

少子化や核家族化が進む中、子育て家庭が孤立しがちとなり、これまで家族が担ってきた子育てや教育を社会全体で支援していく必要性が高まっています。

市内の各地区では、多くの方が、安全・安心な子育て環境をつくるために、さまざまな活動を行っています。

今号では、市内で行われている取り組みの一部を紹介します。

# 特集 地域のかで子どもを 見守る・育てる

【写真】青葉小学校区では、町内会やPTAなどの方が子どもの見守りやあいさつ運動、パトロールを行い、地域のかで子どもの安全を守っています。

子どもの通学路で見守り活動をする

## 驚別子ども見守りたい



◀ 冷え込みの強い日にも、子どもの安全のため笑顔で通学路に立つ隊員



▶ 子どもが少しでも歩きやすいようにと、通学路の雪をよける

子どもが安心して  
通学できるように  
毎日見守ります

子どもが不安のない環境で学習をするためには、周囲の大人のサポートが必要です。現在、多くの方の協力により、地域住民が自ら防犯対策を担い、死角のない見守り活動ができています。見守りをしてきた子どもたちから、隊員へ向けた感謝状ももらったときには、子どもの成長を実感し、とてもうれしくなりました。



驚別子ども見守りたい  
会長  
池 昌 泰 彦 さん

### 地域住民が自ら防犯対策を担う

子どもが不安のない環境で学習をするためには、周囲の大人のサポートが必要です。現在、多くの方の協力により、地域住民が自ら防犯対策を担い、死角のない見守り活動ができています。

見守りをしてきた子どもたちから、隊員へ向けた感謝状ももらったときには、子どもの成長を実感し、とてもうれしくなりました。

今後は、他地域で見守り活動をしている方などと意見を交換し、活動をより充実したものにしていきます。

平成16年に市内で不審者の目撃情報が数多く寄せられたことを受け、平成17年に驚別小学校区の有志4人が、子どもが安心して通学できるよう、『驚別子ども見守りたい』を結成し、子どもの登下校中の見守り活動を始めました。

見守り活動はこととして10年を迎え、活動に参加する方は、町内会や民生委員児童委員、PTAなどの53人に増えています。

隊員は毎日、交代で子どもの通学路に立つて通学を見守り、パトロール車で巡回を行います。月に二度の付き添い下校の日には、隊員が8方面に分かれて、

子どもと一緒に歩いています。

現在、隊員の6割は高齢者で、世代間の交流を深めるため、普段の見守り活動のほか、定期的に交流会を開催し、子どもたちに驚別地区の昔話をしたり、昔の遊びを教えたりしています。

子どもたちは、自分たちの知らない時代の話を聞くことで、先人の苦労の上に成り立っている今の私たちの生活の大切さを学びます。

また、学校への協力として、通学路の草刈りや安全確認、花壇の整備、滑り止め用砂の補充要請など、さまざまな活動が続けられています。

### 幌別小学校区の見守り活動



▲ 子どもも元気にあいさつをする

幌別小学校区の町内会では、子どもを交通事故から守り、不審者の出没を防止するため、校区の町内会会員の方が、子どもの登下校時に交差点で子どもを見守るとともに、下校時には子どもの下校に付き添うなどしています。

見守り活動はあいさつ運動も兼ねており、登下校中の子どもが積極的にあいさつをする様子も見られます。

年に数回、見守り活動をしている方と学校との懇談の場が設けられており、見守りをする中で見られる子どもの様子的変化などが学校へ伝えられています。



ひなわしメート 実行委員長  
おおしかずお  
大越和男さん

**年少者を気に掛ける心を育てる**

少子化によって子どもが他の学年の子どもや地域の大人と触れ合う機会が減る中、多くの人と関わる場を提供することで、年長者を敬い、進んで年少者の世話ができる心を育てています。

子どもたちが、将来は、次の世代を育てるようになってくれればと願っています。

鷲別地区放課後子ども教室『ひなわしメート』は、子どもが安全・安心に遊べる環境が求められる中、放課後の子どもの居場所を確保し、社会全体で子どもを育てるために、平成22年6月に開設されました。

毎週水曜日と金曜日が開放日となっており、約120人の子どもが楽しく通っています。毎回、子どもたちは、地域の方が担



▲寒い季節も元気いっぱい遊ぶ子どもたち

コーディネーターと一緒に宿題を済ませ、教室で遊ぶほか、体育館で思い切り体を動かして体力づくりをしています。

同教室での特徴的な取り組みが、百人一首や茶道、もちつきなどの伝統文化の体験です。

将来、子どもたちが外国の方と交流する機会があったときに、自信を持って日本の文化を紹介できるように取り組みをしています。

また、百人一首などに全員と一緒に取り組むことで、集中力と連帯感を高め、子どもたちのたくましい成長を目指しています。

放課後の子どもの学びを手伝う  
鷲別地区  
放課後子ども教室  
『ひなわしメート』

未来の登別をつくる  
心豊かでたくましい  
子どもを育てています

放課後の子どもの学びを手伝う  
幌別東小学校区  
放課後子ども教室  
『はまなすメート』



▲地域の方と一緒に、思い出に残る調理体験

幌別東小学校区放課後子ども教室『はまなすメート』は、学校の授業のほかに幅広い教育を行うことを目的に、平成23年10月に開設されました。

町内会の会員などがコーディネーターとなり、毎週火曜日と木曜日の放課後に空き教室を利用して、子どもが学校の授業の予習・復習をするのを親身に手伝うほか、一緒に工作や昔の遊びを楽しみ、体育館で球技やなわとびを通じた体力づくりなどを行っています。

子どもたちにとってたくさんの友達をつくる良い機会となっています。

同教室では、学校外の会場でもちつきや恵方巻きづくり、ひな祭りなど季節の行事を行い文化を学ぶ場としているほか、栗拾いや川遊び、雪遊び、近隣の畑での野菜栽培、地域の清掃活動などを通して体を動かすなど、自然とふれあひながら豊かな心を育てる活動を行っています。

子どもが学校で学んだことを家で復習できるように、自分自身で判断ができる自立心のある子ども、心の優しい子どもを育てていきたいです。

全学年の子どもと一緒に思い切り体を動かし、笑顔を見せてくれると、私たちが励まされている思いがし、元気が出ます。



はまなすメート 実行委員長  
なるみ ふみあき  
鳴海文昭さん

夏休み・冬休み中の子どもに勉強を教える  
**緑陽中学校区地域教育協議会**  
**学びサポート**

子どもの学びを  
 手助けし、世代間の  
 交流を促進します



◀和やかな雰囲気の中で勉強を子どもたちも楽しみにしている



▶分からないところは、納得するまで優しく説明

緑陽中学校区地域教育協議会は、平成23年7月から、校区の地域住民が先生となり、夏休み・冬休み中の子どもに勉強を教える『学びサポート』の取り組みをしています。

夏休み・冬休みの各2日間、『地域の先生』が、学校の先生と一緒に、富岸小学校の5・6年生に国語や算数を教えます。

毎回、子どもたちは、地域の先生から問題の解き方を教えてもらうのを楽しんでいます。

平成26年10月からは、さらなる基礎の定着を目指し、月2回の『放課後サポート』の取り組みも始まりました。

当初、指導役を担当していたのは3人でしたが、現在は12人が指導に当たり、子ども一人一人の苦手な部分を見つづけるなど、きめ細かな対応をしています。

『学びサポート』を通じて知り合った子どもと地域の方が、町内会の行事など学校以外の場所でも声を掛け合う関係ができるなど、取り組みを通じて世代間の交流が増えています。

子どもの数が減り、気軽に子どもと触れ合う機会が持ちにくくなっている地域の方にとっても、『学びサポート』が子どもと信頼関係を築くための良いきっかけになってくれます。

子どもと地域をつなぐ架け橋に

『学びサポート』をはじめ、緑陽中学校区地域教育協議会が行う行事に協力してくれる地域の人材を探し、学校に紹介しています。

『学びサポート』での指導の時間は長くありませんが、その中で子どもたちが一つでも役に立つことを覚え、今後の学校の勉強に楽しく取り組んでいってほしいですね。

これからも、子どもと地域をつなぐ架け橋となっていきたいです。



緑陽中学校区コーディネーター  
 佐藤文子さん

登別本町2町会

『夏休み・冬休み子ども塾』



▲子どもの疑問に丁寧に答える

登別本町2町会は、町内の商店の店舗跡を活用した『ふれあいサロン花園』で、住民による子どもの学習支援として、市が用意した学年別の問題集を教材に使い、『夏休み・冬休み子ども塾』を開催しています。

同塾は、地域の将来を担う子どもたちのために何かできないかと、町内会の役員の方案で始められました。子どもの学力向上だけでなく、子どもからお年寄りまで、住民みんなが顔見知りになって助け合える、安全・安心なまちづくりを目的として運営されています。

青葉スケートリンクを維持・管理する

青葉地域団体連絡協議会

## 青葉スケートリンク実行委員会

多くの方が経験を生かし  
互いに協力する  
土壌ができました

▶特に冷え込みの強くなる夜間、多くの方の協力で水まきが行われる



◀雪が降ったときにも、子どもたちのために除雪の労を惜しまない

青葉地域団体連絡協議会は、昭和62年から毎年、子どものために桜木町4丁目にあるスケートリンクをつくり、おおむね1月中旬に供用しています。

昭和62年当時、市内では青葉小学校区にだけスケートリンクがなく、登別市子ども会育成連絡協議会の会員をはじめとした地域の有志が集まり、冬季の子ども遊び場を確保し、体力づくりの場とするため、スケートリンクの造成に乗り出しました。土木業を営む方が、有志の方から無償貸与を受けた用地を造

成し、夜間の水まきに多くの方が協力してスケートリンクを完成させました。第1回目から質の高い氷ができ、それから毎年取り組みが続いています。

当初約10人で始まった取り組みは、町内会や学校、PTA、地域の企業へも広がり、現在約30人の委員がスケートリンクの運営に関わっています。多くの方がそれぞれの経験や技術を生かし、互いに協力する土壌ができました。

近年は地域の祭りにも若い方が多く参加するようになるなど、

### 子どものために地域全体で取り組みたい

スケートリンクの供用が始まってから、子どもが冬でも外で体を動かすようになり、風邪をひく子どもが減りました。冬の作業は大変ですが、元気な子ども姿を見ると、また頑張ろうという気持ちになります。

地域全体が子どもたちのため、学校のためにと協力する体制ができましたので、今後もこの理念を保って

スケートリンク造成の取り組みを長く続け、ほかにも子どもたちのためになる新しい取り組みを考え、実行していきたいです。

今後は、若い方の活躍にも期待したいですね。



青葉スケートリンク実行委員長  
亀山 聖さん



▲青葉スケートリンクまつり

取り組みはスケートリンク造成にとどまらず、地域活動の活性化につながっています。

小学校の教員も取り組みに協力するようになったため、教員と子どもとの保護者が気軽に話し合い、親身になって子育てについて考えることのできる関係が築かれました。今では保護者や教員のみならず、地域の多くの方が子どもたちの教育に関心を寄せようになりました。

現在、スケートリンクは青葉小学校の授業でも使われているほか、毎年『青葉スケートリンクまつり』が行われ、市内小・中学校の特別学級のスケート体験にも利用されています。週末にはたくさんのお客さんが訪れ、親睦を深めています。

子育て中の保護者の憩いの場

## ふれあい子育てサロン 『どんぐりコロコロ』



◀安全に配慮された会場で思い切り遊ぶ子どもたち



▶子どもたちが楽しく遊ぶ中、保護者同士の会話もはずむ

# 子育て支援を通し 保護者と地域、 保護者同士をつなぎます

現在、市内には登別市社会福祉協議会が推進する、小さな子どもを持つ保護者のふれあいの場『ふれあい子育てサロン』が4カ所に設けられ、保護者の息抜きや交流の場となっています。ふれあい子育てサロン『どんぐりコロコロ』は、核家族化の進行により子育てをする母親の孤立を身近に感じた地域の方が、4カ所のサロンの中では最も早い平成16年に、民生委員児童委員と一緒に立ち上げました。

現在10人が運営に携わり、毎週木曜日の10時から老人憩の家『くぶしの家』で子どもたちを待っています。サロンの運営で

は男性も活躍し、訪れた子どもと一緒に遊び、子どもが指を挟まないよう戸に細工を施すなど、安全対策に気を配っています。子どもががををする心配のない安全・安心な会場では、保護者同士が互いに心を開いて悩みを相談し、子育て情報を交換しています。

同サロンは、近くのグループホームと交流をしているほか、町内会から会場の提供などの支援を受けており、同サロンの利用者が地域の祭りに積極的に参加するなど、地域と互いに協力することで、交流の促進にも役割を果たしています。

### 友達つくりとストレス解消の場について

保護者に気軽に来ていただくため、過度に干渉せず、皆さんに自由に過ごしてもらっています。気楽に友達をつくり、ストレス解消の場にしてほしいと思います。利用者が「ここに来ると実家に来たような気分になります」と明るい表情になるのを見ると、運営をしていて良かったと思います。

また、保護者の悩み相談などを通して、子育ては案外気楽なものだと思ってもらえればうれしいです。

町内会からの協力にはいつも感謝しています。



どんぐりコロコロ  
代表  
鈴木テツ子さん

### 子育ての息抜きを



長男が生まれたときから通っています。小さな子どもがいるとなかなか外出ができませんが、ここには同じ悩みを持ったお母さんが集まるので、安心して子どもを連れて来ることができます。

中村明子さん、健太くん(5)、こと子さん(3)、修太くん(1)



▲お父さんにも子どもが集まる